

# 巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散し全世界を混乱に陥れ、長野県透析研究会の学術活動にも大きな影響を与えました。

2020年11月に開催するはずであった第68回長野県透析研究会学術集会は、医療現場を含め日本全体が厳戒態勢で感染症対策を行っていたこと、第2波・第3波の感染拡大が危惧されたこと、県内透析従事者が感染した場合に透析患者のクラスター化を起こしてしまう可能性があったこと、などから史上初の長野県透析研究会誌上での論文発表という形式での開催とさせていただきました。

その後もCOVID-19は完全収束することはなく、第1波から第8波まで感染拡大を繰り返し、social distanceが必要な世界が3年以上も続くことになりました。そんな中、RNAワクチンやCOVID-19治療薬が臨床応用されるようになり、感染予防対策も浸透し、またweb配信にも多くの人々が慣れてきたということもあり、第69回、第70回長野県透析研究会学術集会はweb配信を利用したハイブリッド集会として、発表者や座長は現地集合、それ以外の参加者はweb参加という形で開催させていただきました。

今回の長野県透析研究会誌は、そんな社会的困難な中、演者の皆様に発表して頂いた内容が中心となり構成されています。

多くの苦勞をかけて作成された論文ばかりですので、より多くの方々にこれらの論文を自由に読んで頂き、今後の透析医療の参考にして頂くために、前回の長野県透析研究会誌から本誌発表論文はオープンアクセス化することに致しました。オープンアクセス化により、長野県から発信した研究内容が日本中で利用されることが期待されます。論文のオープンアクセス化に向けては、個人情報保護や倫理的問題や論文内容に問題がないかの査読によるチェックが必須となります。今回も、多くの査読者の皆様のご協力を得、web公開前に論文チェックを行うことができました。査読者の皆様には、多くの時間を割いて頂いたかと思えます。この場を借りて査読者の皆様に感謝申し上げます。

査読をしっかりと行った場合には、その後に執筆者の皆様に修正作業をして頂くことが必要となります。執筆者の皆様におかれましては、長野県透析研究会誌への論文投稿にあたって事前に長野県透析研究会誌の投稿規定を熟読していただき、投稿規定に沿った論文作成をして頂くことを是非ともお願い致します。

さて、2023年5月にCOVID-19は5類感染症に引き下げとなることが決定し、急速に世間は元の世界を取り戻そうとしています。2023年に開催される多くの学会はリアル開催になりつつある現状を

受け、2023年11月に予定している第71回長野県透析研究会では、ハイブリッド形式を残しつつも、昨年度より多くの参加者に自由に会場にご来場できるようにしたいと思っております。ぜひ、積極的なご参加をお願い致します。

現在、透析医療においては、透析合併症に対する多くの課題、透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い、保存的腎臓療法や腎臓リハビリといった新たな話題、より良い腎代替療法選択など、様々なトピックがあります。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌は、これらのトピックに対して様々な観点から議論をし、得られた知見を世界に発信できる存在になることを目標にしたいと思っております。長野県透析研究会の皆様におかれましては、目標に向かい心を一つにしてともに歩んで頂くことをお願いしたいと思います。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。